

# 老婆心ながら

～校長からの一言～

## 本当に怖いには「コロナ」？ それとも「人の目」？ ～コロナウイルス感染者が出た時に、学校の真価が問われる～

日本でコロナウイルスの感染拡大が大きな問題になりだしてから約半年が過ぎました。当初は、高齢者に感染が拡大したこともあって死亡数が多かったことや有名人の志村けんさんや岡江久美子さんなどが亡くなられたこともあって、誰もがコロナウイルスに感染してしまうことに対して恐怖を感じていたと思います。そして、「非常事態宣言」。私達は、自分の命や家族の命を守るために、不自由な生活（新しい生活様式）に耐えてきました。

しかし、いつの頃からか、「若い人は重症化しない」「新規感染者は増えてきているが、重症者率は高くない」などという話しを受け、コロナウイルスそのものの恐怖は薄れてきているように思われます。政府が出した「Go To トラベルキャンペーン」からも、日本においては、病気そのものの怖さが一時期ほどではなくなってきていることが伺えるのではないのでしょうか。（本当は、怖いものだと思いますが・・・。）

では、それでも日本人の多くが、新しい生活様式を守っているのはなぜなのでしょう。

私も、「先生方自身がコロナウイルスに感染してしまうことがないように」と本校の職員に言うことが多くありますが、これは、先生方を心配しての言葉なのでしょう。「自分自身の肩身が狭くなってしまうよ」という意味で捉えれば、心配しての言葉なのかもしれませんが、先生方の身体を心配しての言葉ではないように思います。皆さんにも多かれ少なかれこういう感覚はあるのではないのでしょうか。「暑いけどマスクを外せない」という現状も、果たして「感染させてはいけない」「感染したくない」よりも「人の目」が怖いということの方が大きい人も少なくないのではないのでしょうか。

そう考えた時、「もし、本校でコロナウイルス感染者が出てしまったら」どうなるのでしょうか。一番可哀そうなのは感染した本人なのですが、皆が、感染してしまった人の病状を心配するという状況になるのでしょうか。校内での感染拡大や休校による授業の遅れなどに焦点が当てられ、感染してしまった人への誹謗中傷が始まらないのでしょうか。私は、今年度の学校経営の重点として、「学校のユニバーサルデザイン化」を挙げました。ユニバーサルデザイン化には、寛容さや寛大さが必要だと考えます。たとえコロナウイルスに感染してしまった生徒や教職員が出たとしても、純粹に感染してしまった人の身体の具合を案じてあげられるような学校でありたい。これが私の「願い」であり「目標」です。